

JDP設立のねらいと 現時点の到達点

大学の国際化促進フォーラム 立命館大学プロジェクト
第1回ワークショップ
2023年2月26日

安高啓朗 (立命館大学)



目次

2

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科概要

JDP設立のねらい

到達点：教学上のメリット

到達点：運営上の課題



概要

3

国際関係学部

国際関係学科

国際関係学専攻

グローバル
スタディーズ専攻

アメリカン大学・立命館大学
国際連携学科

2018
NEW

国際関係学部 基本情報

国際関係学科 (IR専攻
982名、GS専攻410
名)

国際連携学科 (52名)

科目数 (日本語110、
英語72)

出身国 (学生30ヶ国、
教職員17ヶ国)

※2022年9月26日現在



概要

4

1年目		2年目		3年目		4年目	
Spring 1	Fall 2	Spring 3	Fall 4	Spring 5	Fall 6	Spring 7	Fall 8
立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

共同開設科目(コーホート)「First Year Seminar」

リサーチ手法科目

固有専門科目

地域研究科目

ゼミ・卒業研究

国際関係学部と立命館大学における国際化の拡大と深化の延長線上にJDPが位置づけられる

共同学部学位プログラム（DUDP、いわゆるDD）の段階的進化

DUDPの構造的制約の解消

双方向性の強化

英語基準プログラムの拡充

グローバル・スタディーズ専攻開始で始まった英語基準プログラムを拡大する起爆剤として

一貫したカリキュラムと学びのつながり

グローバル国際関係学に向けた多様な視点からの学習

卒業研究に向けてキャンパス・国を超えて学びを積み上げるデザイン

キャンパス・国を超えた研究指導の継続性

日米のアドバイザーが連携したシームレスなアドバイジング

入学から卒業まで、両大学による学生支援

コロナ禍で発揮されたJDPの強み

ラーニングスケジュールを変更する等して柔軟に対応、学生一人一人に対してきめ細やかにサポート

①カリキュラム運営

設置する上で克服すべき課題（教学制度・文化背景の差異、様々な分野での調整、対等性の実現・維持）

カリキュラム運営や単位のあり方、評価方法（カリキュラムに対する考え方の違い、単位数の違い、課題量）

②アカデミックアドバイジング

専門職の不在（アカデミック・アドバイジングのノウハウ／担い手の不足、属人的で制度化されていない）

運営体制（教員・職員・教職協働、異動を中心とする日本流組織運営との齟齬）

③キャリア支援

多様なキャリア観とのミスマッチ（必ずしも卒業後すぐに就職という学生ばかりではない、キャリアセンター等関係部局との連携）

日本企業が求める「高度外国人材」とのミスマッチ（日本語が完璧かつ日本的な立ち居振る舞いのできる外国人？）

校友会・同窓会運営（国際学生の参加率の低さ）

④学生支援

大学全体の国際学生支援（学部事務室を超えた学生の支援、日英2言語化の難しさ）

課外活動支援（クラブ・サークル活動へのハードル、「グローバル・サポーターズ」の試み）



ご清聴ありがとうございました

大学の国際化促進フォーラム
立命館大学プロジェクトウェブサイト
<https://www.ritsumei.ac.jp/rsgu/forum/>